

## 特別史跡 加曾利貝塚 平成 30 年度発掘調査状況説明資料

### I. 調査の概要

調査期間：平成 30 年 8 月 7 日～11 月 24 日（日・月曜日・祝日休み）

準備工 7 月 30 日～8 月 3 日、撤去工 11 月 26 日～12 月 7 日（予定）

調査面積：700 m<sup>2</sup>（25m×28m）

調査地点：南貝塚北東部

調査体制：調査員 2 名、現場管理者 1 名、作業員 8 名

### II. 調査の目的

1. 昨年度東側半分を調査した 85 号竪穴住居跡の西側半分を調査する。
2. 昭和 39 年の旧Ⅳ・Ⅴトレンチの埋土を再発掘し、総括報告書で「未報告遺構 5」とされた遺構を含め、遺構の確認を行う。
3. 発掘調査の中長期計画策定のための情報を得る。

### III. 調査の状況

- ①85 号竪穴住居跡（縄文時代晩期前葉：安行 3 b 式期）の西側半分も含めた調査を実施し、壁面・床面・炉・柱穴の確認を実施中。
- ②旧Ⅴトレンチ 3・4 区、旧Ⅳトレンチ 3・4 区で「未報告遺構 5」を確認した。覆土は黒色土や黄褐色土からなる。底面は平坦であり、焼土の存在から、竪穴住居跡（縄文時代晩期前葉：安行 3 b 式期）と考えられる。長軸 12m を超える。貝層が存在する。
- ③旧Ⅴトレンチ 4 区を含め、「未報告遺構 5」の上には東西に走る溝（縄文時代晩期前葉またはそれ以降）が存在する。覆土上部に火山灰が堆積している。
- ④旧Ⅴトレンチ 4 区で、縄文時代後期の遺物を含む遺構覆土と思われる土層を複数確認している。
- ⑤旧Ⅴトレンチ 4 区の 92 号人骨は 85 号竪穴住居跡に一部切られていること、縄文時代後期の遺構覆土や貝層が関係していることを確認した。
- ⑥旧Ⅴトレンチを含め、ハードロームは確認できるが、その直上には縄文時代後期の土層（遺構覆土を含む）や晩期の黒色土が存在し、ソフトロームや漸移層は確認できていない。
- ⑦縄文時代後期の土層の上面は調査区東側で高くなっており、東側への傾斜は認められない。
- ⑧旧Ⅴトレンチ 3 区で土坑（覆土はトレンチ部分について完掘されている）を確認した。
- ⑨旧Ⅳトレンチ 3 区で「未報告遺構 3・4（土坑）」を確認した。「未報告遺構 3」はトレンチ部分について完掘されている。「未報告遺構 4」は「未報告遺構 5」に切られている。覆土の大半は未掘で、貝層が存在する。（貝層の上位はサンプリング実施済）
- ⑩黒色土・黄褐色土の成因については細野衛氏により調査方法の指導を受けた。来年度、柱状サンプルを採取し、鉱物学的分析（火山灰を含む）・土壌化学分析・年代測定等を実施する予定。火山灰については関東第四紀研究会の協力を得、近隣の古山遺跡で比較用の柱状サンプルを採取。
- ⑪排出土については電動ふるい（5mmメッシュ）を 2 基導入し、遺物回収を実施している。

#### IV. 発見された遺構と遺物

遺構：竪穴住居跡2（縄文時代晩期前葉）、溝1、土坑3、焼土、貝層

遺物：縄文土器（中期・後期・晩期）、土製品（土偶・耳飾・土器片円板）、石器（石鏃・石斧・石剣・垂飾品）、骨角器（刺突具）、人骨、獣骨、魚骨

#### V. 今後の予定

- ・現地説明会 11月24日（土）10:00～15:30 荒天時は順延

#### <来年度の発掘調査の調査項目・課題>

- ・未報告遺構5の調査（上位の溝の調査、貝層ブロックの調査も含む）
- ・縄文晩期の他の住居址の確認
- ・確認されている土坑（未報告遺構3、4、他土坑）
- ・人骨（92号人骨）の扱い
- ・貝層（晩期以前）のサンプリング
- ・土壌サンプリングの採取